

令和 5 年度







佐潟周辺自然環境保全計画評価シート



令和 4 年 11 月 19 日 (土) 「佐潟探検隊第 4 回」

佐潟で活動する事業等の令和 4 年度取り組み評価シート

表. 第4期佐潟周辺自然環境保全計画の目標と取り組み項目一覧


基本的な方針	目標	取り組み項目	
<p>【基本的な方針Ⅰ】</p> <p>生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人の関わりのなかで多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てていく。</p>	<p>目標(1)多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり</p> 	<p>ア 潟固有の水生植物が生育しやすい環境をつくる</p> <p>イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる</p> <p>ウ 外来動植物が生息・生育しないための効果的な駆除対策を行う</p> <p>エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる</p> <p>オ 魚介類が生息しやすい環境をつくる</p> <p>カ ブラックバスなどを入れさせない防止活動を進める</p> <p>キ ゾーニングの手法を用いて守り育てる環境保全方法を検討する</p>	
	<p>目標(2)佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全</p> 	<p>ア 緑地帯を保全する</p> <p>イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する</p> <p>ウ 適正な水位管理を実施する</p> <p>エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う</p>	
	<p>目標(3)調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進</p> 	<p>ア モニタリング調査を継続して実施する</p> <p>イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する</p> <p>ウ 潟の研究を多面的にすすめる</p>	
	<p>【基本的な方針Ⅱ】</p> <p>先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。</p>	<p>目標(4)昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり</p> 	<p>ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する</p> <p>イ 地域文化を発掘、継承し、発信する</p> <p>ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る</p> <p>エ 佐潟及び佐潟周辺地域を核とした持続可能な地域づくりを推進する</p>
	<p>【基本的な方針Ⅲ】</p> <p>市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。</p>	<p>目標(5)福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進</p> 	<p>ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる</p> <p>イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる</p>
		<p>目標(6)佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開</p> 	<p>ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する</p> <p>イ ラムサール条約登録湿地間の連携、ガンカモ類保護ネットワークの構築を行う</p>

基本的な方針 I

生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人との関わりの中で多くの動植物が生

目標 (1) 多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり

取り組み項目：ア 潟固有の水生植物が生息しやすい環境をつくる

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
ハスの生育調査	2年前から激減したハスの生育状況調査を行う。		令和4年5月16日(月) 令和4年5月28日(土) 令和4年6月10日(金) 令和4年7月12日(火) 令和4年9月15日(木) 令和4年9月26日(月) 令和4年10月24日(月) 令和4年11月5日(土)	1	上潟および御手洗潟ではハスは生育するが、下潟では栽培保全を行っているハス田以外では生育は確認できなかった。	2018より下潟でハスが生育しない状況が続いている。水質の悪化(アオコの大量発生)、外来生物等による食害、水位管理の変化などが原因と考えられ、一つ一つを改善することが必要。佐潟と歩む赤塚の会と共に復活に向けたハスの育成を継続中。		(公財)新潟県都市緑花センター
エコトーン整備	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		令和4年5月2日(月) 令和4年5月16日(月) 令和4年5月28日(土) 令和4年6月10日(金) 令和4年7月12日(火) 令和4年9月15日(木) 令和4年9月25日(日) 令和4年10月24日(月) 令和4年11月5日(土)	1 (9/25のみ5名)	調査および手入れを実施。ヤナギトラノオ、デンジソウの生育を確認したが、昨年まで見られたミズアオイの生育は確認できなかった。水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。	現在佐潟で希少となった種のほとんどが遷移が進むと消失する植物である。現在のエコトーンを維持するためには、土壌の攪乱や追加、遷移の進行を止めるための草刈りや剪定などが必要となる。		(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査	佐潟に自生する希少植物(ヤナギトラノオやミズアオイなど)の調査を行う。		令和4年5月16日(月) 令和4年5月28日(土) 令和4年6月10日(金) 令和4年7月12日(火) 令和4年9月15日(木) 令和4年9月25日(日) 令和4年10月24日(月) 令和4年11月5日(土)	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。サデクサについては例年に比べ減少傾向であった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化(アオコの大量発生)、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理(水位の変化)は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。サデクサについては減少している様子であったため、来年度は原因を含め重点的に調査を行いたい。		(公財)新潟県都市緑花センター
佐潟ハス復活プロジェクト	衰退したハスの復活を目指してハス苗を育成する。 ①ハス田からレンコンを潟に移植 ②出前授業、発芽処理 ③バケツで育てたレンコンをハス田移植 ④株分け、育苗、ハス田移植 ⑤ハス田のレンコンを下潟に移植 ⑥レンコンを移植(泥バケツへ) ⑦ハスの実を試食、象鼻杯体験 ⑧レンコン掘り ⑨プロジェクト報告会	   	①令和4年4月10日(日) ②令和4年5月2日(月) ③令和4年5月16日(月) ④令和4年5月22日(日) ⑤令和4年5月28日(土) ⑥令和4年6月10日(金) ⑦令和4年9月26日(月) ⑧令和4年11月20日(日)、27日(日) ⑨令和5年2月12日(日)	100人	5/2、赤塚小学校に出向き、5年生の総学習でハスの実発芽処理を行った。併せてハスプロの概要を説明した。6年生は校庭脇で育てたバケツハスを5/16、ハス田に移植した。地元小学生に地域への関心、湿地の多様性を学ぶ時間を共有した。プロジェクトのスケジュールが確立できた。	報告会では下潟でのハス再生ができなかったことを報告した。一方、児童らがハス田で収穫体験できた。潟でのハスの再生には複合的な要因がある。従来行われていた水位変動を再開した。潟に移植したハス苗が活着するために養生策を検討したい。		佐潟と歩む赤塚の会

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
地域関係者との意見交換	佐潟の水位管理について意見交換を行う。	6 15	通年	-	標準水位に基づく管理を行い、水位調整を行うことで水質改善を図る。	令和3年度に水位管理についての実施体制について確認し、令和4年度年間を通して水位管理を実施。引き続き、水位管理を継続し水質状況を確認していく。令和4年5月に設置した佐潟水鳥・湿地センター前の水位計の計測結果を集計し協議会で報告中。		環境政策課

取り組み項目：イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
エコトーン整備【再掲】	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。	4	令和4年5月2日(月) 令和4年5月16日(月) 令和4年5月28日(土) 令和4年6月10日(金) 令和4年7月12日(火) 令和4年9月15日(木) 令和4年9月25日(日) 令和4年10月24日(月) 令和4年11月5日(土)	1(9/25のみ5名)	調査および手入れを実施。ヤナギトラノオ、デンジソウの生育を確認したが、昨年まで見られたミズアオイの生育は確認できなかった。水深の深いエリアではヒメガマが繁茂する他は他の植物出現は見られなかった。	現在佐潟で希少となった種のほとんどが遷移が進むと消失する植物である。現在のエコトーンを維持するためには、土壌の攪乱や追加、遷移の進行を止めるための草刈りや剪定などが必要となる。		(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物(ヤナギトラノオやミズアオイなど)の調査を行う。	15	令和4年5月16日(月) 令和4年5月28日(土) 令和4年6月10日(金) 令和4年7月12日(火) 令和4年9月15日(木) 令和4年9月25日(日) 令和4年10月24日(月) 令和4年11月5日(土)	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、シラスゲ、スジマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲショウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。サデクサについては例年に比べ減少傾向であった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化(アオコの大量発生)、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理(水位の変化)は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。サデクサについては減少している様子であったため、来年度は原因を含め重点的に調査を行いたい。		(公財)新潟県都市緑花センター

取り組み項目：エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
鳥類標識調査	環境省管轄(山階鳥研主導)の全国的な渡り鳥調査に参加し、定期的に実施する。	15	令和4年5月14日~15日 令和4年10月中旬~11月上旬	令和4年5月15日(6名)10月20日~11月6日・16日間(5人で継続調査)	延べ17日間の調査で合計24種約1,300羽の野鳥を標識・放鳥した。オオジュリンの移動先が国内10数県に及ぶことがわかった。	小鳥類の秋の渡りの状態について追加知見が得られた。長年に亘って野鳥の個体数動態を分析する重要な調査であるが、後継者が育たず先行きが心配される。		佐潟鳥類標識グループ
佐潟パトロール	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	11 15 17	6月から11月の土休日	-	6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車を発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。		西区建設課

目標（２）佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全


取り組み項目：ア 緑地帯を保全する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
西区佐潟公園樹木芝生等管理業務委託	公園を構成している植物の生理・生態的特徴を十分理解して健全な育成を図り、植物空間の充実・完成をさせ、公園機能を維持するために技術的管理を行う。	15 17	令和4年5月20日～令和5年3月10日まで	-	令和4年5月20日～令和5年3月10日までの期間に樹木芝生等の維持管理を継続的に実施した。	植物の健全な育成に必要な維持管理を行うことで、公園機能を確保し、公園利用者への環境整備を図った。		西区建設課

取り組み項目：イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する



事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
水質調査	佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を行う。	6	毎月1回	-	佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を実施した。	水環境の把握とともに保全のための基礎資料とする。		環境対策課
身近な水環境の全国一斉調査	世界環境デーに合わせて全国で河川、湖沼の水質調査を一斉に行う。	6	令和4年6月1週	20	御手洗潟では2021年の数値と比較して改善が見られたが、佐潟下潟と共に新潟市の河川及び他の潟と比較し、水質が悪い状態が続いている。	年度による水質の数値変動はあるが悪化原因を探る必要性があり、将来にわたる対策が求められている。		新潟水辺の会
地域関係者との意見交換【再掲】	佐潟の水位管理について意見交換を行う。	6 15	通年	-	標準水位に基づく管理を行い、水位調整を行うことで水質改善を図る。	令和3年度に水位管理についての実施体制について確認し、令和4年度年間を通して水位管理を実施。引き続き、水位管理を継続し水質状況を確認していく。令和4年5月に設置した佐潟水鳥・湿地センター前の水位計の計測結果を集計し協議会で報告中。		環境政策課

取り組み項目：エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟周辺自然環境保全連絡協議会の開催	佐潟に関わる団体や有識者から出席いただき、佐潟に関する様々な取組みの報告や保全と賢明な活用に向けた検討を行う。	11 15 17	第34回（書面開催） 令和4年6月14日（火） 第35回 令和4年10月13日（木） 第36回 令和5年3月16日（木）	第34回 （書面開催） 第35回 25人 第36回 24人	第34回（令和4年6月14日）については書面開催とした。第35回（令和4年10月13日）36回（令和5年3月16日）佐潟周辺自然環境保全連絡協議会を開催した。	適正な水位管理を行うことで、土壌攪乱や水質改善、水生植物の発芽促進が期待される。引き続き、水位管理を実施しながら、水質変化やハスの復活状況等を確認していく。アオコ対策についても検討が必要。		環境政策課

目標（３）調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進

取り組み項目：イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する







事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和4年10月～令和5年3月	-	毎週金曜日にしない4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、調査結果を市のホームページで紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。	環境政策課
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		令和4年5月16日（月） 令和4年5月28日（土） 令和4年6月10日（金） 令和4年7月12日（火） 令和4年9月15日（木） 令和4年9月25日（日） 令和4年10月24日（月） 令和4年11月5日（土）	1	重点的に保全を行っているヤナギトラノオ、シラスゲ、スジヌマハリイ、シロバナサクラタデ、ハンゲシヨウなどは例年通り確認できたが、消長の激しいオニバス、ミズアオイについては今年は生育初期にわずかに確認されたものの、繁殖サイズまで成長した個体は確認できなかった。サデクサについては例年に比べ減少傾向であった。	水生植物であるオニバスやミズアオイについては、ハスの消失と同様、水質の悪化（アオコの大量発生）、外来生物等による食害、水位管理の変化などが理由で確認できていないと思われる。特に水位管理（水位の変化）は水深の深い下潟では水生植物が育つためには必須条件であるため、再開が望まれる。サデクサについては減少している様子であったため、来年度は原因を含め重点的に調査を行いたい。	（公財）新潟県都市緑花センター

基本的な方針Ⅱ

先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。

目標（４）昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり

取り組み項目：ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業			写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果		
ラコテ赤塚	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。	 	令和4年7月30日（土）	6人	空き缶、ペットボトルにはじまり不法投棄された炊飯ジャーなどを回収した。	-	佐潟と歩む赤塚の会
佐潟クリーン活動	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。		令和4年6月24日 令和4年9月30日	200 150	・6月は小学校6年生と中学生約200名で、佐潟の泥あげやゴミ拾い、ヨシ集めを行った。 ・9月は中学生約150名で、佐潟公園にチューリップの球根（2500球）を植えた。	・佐潟の環境保全について意識を高めることができた。 ・小学校との連携により、環境学習の連続性が図られた。	赤塚中学校 赤塚小学校 木山小学校
佐潟パトロール【再掲】	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	  	6月から11月の土休日	-	6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車を発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。	西区建設課


事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
濁普請・佐潟クリーンアップ活動	水門付近の保安、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。	6 15 17	令和4年9月24日(土)～25日(日)	100人	濁普請を赤塚中学校の生徒らと9月25日、3年ぶりに実施した。新型コロナウイルス禍では歩む会のみで行ってきた。企業からのボランティア参加もあった。ハス田脇のヨシ刈り、自然生態園の池周辺の整備を行った。	台風15号の影響で24日に事前に行う予定だったヨシ刈りは午後からの作業に変更した。新潟市の湿地自治体の認証により多くの市民が湿地環境に関心を持ってもらう契機として展開していきたい。ヨシ原での作業を通して参加者には佐潟の現状を知ってもらえたのではないかと考える。		佐潟と歩む赤塚の会
春の濁普請	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	6 15 17	令和5年3月26日(日)	18人	新潟大学の学生、自治会関係者が参加して小雨の降る中、3月26日、実施した。今年も上潟周辺を散策したが、例年と比べて空き缶などゴミの量は少なかった。	クレソンは外来種。成長した芽は下潟の湖面でも大きな群落となっている。見つけ次第、抜き取っていることを参加者で確認した。クレソンに覆いつくされた水底は陽が届かず、在来の水生植物が育たなくなる。		佐潟と歩む赤塚の会

取り組み項目：イ 地域文化を発掘、継承し、発信する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
生きもの観察会	水辺の生きもの観察会を予定。悪天候の場合は理科教室でバックテストで水質調査や顕微鏡で水中の生きものを観察する。	4 11 17	令和4年7月12日(火)	40人	赤塚小5年生の生きもの観察会が7月12日、行われた。当初はハス田で行う予定だったが、悪天候のために急ぎよ理科教室に会場を変更して行った。上潟、下潟の水を採取し、バックテスト(水質調査)、顕微鏡で水中の生き物(ラン藻類、ミジンコなど)観察を行った。	上潟の水と下潟の水を比べると、下潟の水は明らかに水の色が緑色だった。児童はその違いを認識しながらラン藻類を絵に書いたり、タブレットで撮影したりした。担任の先生が用意した写真で藻類の種類を調べるなど、教室内でも様々な体験を行うことができた。		佐潟と歩む赤塚の会
ラコテ赤塚【再掲】	佐潟水門下ゴミ拾いを行う。	11 15	令和4年7月30日(土)	6人	空き缶、ペットボトルにはじまり不法投棄された炊飯ジャーなどを回収した。	-		佐潟と歩む赤塚の会
佐潟クリーン活動【再掲】	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。	15	令和4年6月24日 令和4年9月30日	200 150	・6月は小学校6年生と中学生約200名で、佐潟の泥あげやゴミ拾い、ヨシ集めを行った。 ・9月は中学生約150名で、佐潟公園にチューリップの球根(2500球)を植えた。	・佐潟の環境保全について意識を高めることができた。 ・小学校との連携により、環境学習の連続性が図られた。		赤塚中学校 赤塚小学校 木山小学校
濁普請・佐潟クリーンアップ活動	水門付近の保安、ハス田への泥上げなどを通して佐潟の現状を確認する。	6 15 17	令和4年9月24日(土)～25日(日)	100人	濁普請を赤塚中学校の生徒らと9月25日、3年ぶりに実施した。新型コロナウイルス禍では歩む会のみで行ってきた。企業からのボランティア参加もあった。ハス田脇のヨシ刈り、自然生態園の池周辺の整備を行った。	台風15号の影響で24日に事前に行う予定だったヨシ刈りは午後からの作業に変更した。新潟市の湿地自治体の認証により多くの市民が湿地環境に関心を持ってもらう契機として展開していきたい。ヨシ原での作業を通して参加者には佐潟の現状を知ってもらえたのではないかと考える。		佐潟と歩む赤塚の会

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
春の潟普請 【再掲】	上潟を中心に散策しながら ゴミを回収する。	6 15 17	令和5年3月26日(日)	18人	新潟大学の学生、自治会関係者が 参加して小雨の降る中、3月26日、 実施した。今年も上潟周辺を散策 したが、例年に比べて空き缶など ゴミの量は少なかった。	クレソンは外来種。成長した芽は下潟の湖面 でも大きな群落となっている。見つけ次第、 抜き取っていることを参加者で確認した。ク レソンに覆いつくされた水底は陽が届かず、 在来の水生植物が育たなくなる。		佐潟と歩む赤 塚の会

取り組み項目：ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る



事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
潟舟体験	潟舟で湖面に繰り出して五 感で佐潟を感じる。ハス、 オニバスなどの水性植物を 観察する。	6 8 11 17	①令和4年5月1日(日) ②令和4年5月4日(水) ③令和4年6月25日(土) ④令和4年7月7日(木) ⑤令和4年7月17日(日) ⑥令和4年8月27日(土) ⑦令和4年9月18日(日) ⑧令和4年10月9日(日)	-	5/1 悪天候のため中止 5/4 悪天候のため中止 6/25 強風で中止 7/7 赤塚小4年生・潟舟体験 7/17 11人 8/27 44人(佐潟まつり) 9/18 18人(早朝、6:30~) 9/30 3人(中原市長ら広報担当) 10/9 40人	強風、悪天候で運行中止、日程変更が度々発 生した。来年も朝市で公園にやってくる市民 を対象に早朝潟舟を計画したい。		佐潟と歩む赤 塚の会
ハクチョウ観察 会	ハクチョウの飛び立ち、増 入りを観察する。	4 11 15 17	開催中止	-	-	-		佐潟と歩む赤 塚の会

基本的な方針Ⅲ

市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。

目標（5）福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進

取り組み項目：ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる

















事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
令和3年度佐潟市民探鳥会	世界湿地の日の関連事業として、「にいがた野鳥の会」を講師に迎え、水鳥を始めとした冬鳥の観察会を開催する。		-	-	市民探鳥会事業はR3年度で終了	市民探鳥会事業はR3年度で終了		環境政策課
新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携【再掲】	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和4年10月～令和5年3月	-	毎週金曜日にしない4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、調査結果を市のホームページで紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。		環境政策課

取り組み項目：イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる

目標（6）佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開

取り組み項目：ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟自然散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。	 	3月～10月までの毎月第2、4土曜日	162	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟写真展	佐潟周辺の自然や景色の写真を公募し、展示する。	 	令和4年10月1日(土)～令和4年10月23日(日)	16	応募者数16名、応募者点数30点、自然豊かな佐潟を写真撮影した作品を募集し展示した。	自然の宝庫である佐潟周辺で撮影した写真を来館者に観ていただき感動を与えた。		佐潟水鳥・湿地センター
小鳥さえずる佐潟で春散歩	ボランティア解説員の案内で春の佐潟を散策し、野鳥を観察する。	 	令和4年4月16日(土)	10	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、春の野鳥や植物を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探検隊（さかたん）	小学生に佐潟で自然体験を通し、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらうための通年企画。 第1回は風つくり風あげを実施。 第2回は水辺の生き物観察・潟舟体験の開催。 第3回は焼き物の皿つくりを実施する。 第4回は冬鳥観察会、修了式を行う。	 	①令和4年5月28日(土) ②令和4年8月20日(土) ③令和4年9月17日(土) ④令和4年11月19日(土)	9	佐潟と歩む赤塚の会や外部の講師、ボランティア解説員の指導や案内で観察舎脇にハス移植、潟舟乗船、水辺の生き物観察、佐潟の植物を利用して焼き物の皿作り、冬鳥の観察を行った。	全4回の体験を通して、春夏秋冬の佐潟の自然の豊かさを体験してもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探検隊・サカタ	ハスの移植、潟舟を体験する。 ①ハス再生の学習、移植作業 ②潟舟体験	   	①令和4年5月28日(土) ②令和4年8月20日(土)	9人	佐潟の生き物などについて学ぶ「第1回さかたん（佐潟探検隊）」が5月28日、開かれた。テーマは「ハス移植と潟舟体験」強風のたため潟舟体験は8月20日に延期、実施した。	ハス再生の目的の説明をした。子どもらは裸足になってハス田に入り、受け取ったハス苗を植えた。泥の感触など貴重な体験になったと思う。また、延期となった8月に無事、潟舟に乗船することができた。		佐潟と歩む赤塚の会
初夏の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、初夏の植物を観察する。	 	令和4年6月4日(土)	9	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。		佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
水辺の生きもの観察教室	ボランティア解説員の案内で佐潟の水辺の生きものを観察する	 	令和4年7月2日(土)	8	小学生を対象に、佐潟ボランティア解説員の案内で水辺の生きものを採集し、観察した。イベント終了後、採集した生きものは潟へ戻した。	佐潟公園で水辺の生きものを採集し、観察したり解説を聞きながら自然に親しみ、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター	
夏休み佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で夏の佐潟の昆虫を観察する。	 	令和4年7月30日(土)	9	佐潟ボランティア解説員の案内で観察舎周辺までの昆虫を採集、観察した。	佐潟公園のさまざまな昆虫を採集、観察、リリースするという体験を通し、楽しみつつ学習できた。	佐潟水鳥・湿地センター	
秋の佐潟昆虫観察会	ボランティア解説員の案内で秋の佐潟の昆虫を観察する。	 	令和4年9月3日(土)	7	佐潟ボランティア解説員の案内で観察舎周辺までの昆虫を採集、観察した。	佐潟公園のさまざまな昆虫を採集、観察、リリースするという体験を通し、楽しみつつ学習できた。	佐潟水鳥・湿地センター	
秋の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、植物を観察する。	 	令和4年10月1日(土)	10	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物や野鳥を観察した。	早春の植物や野鳥などの自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター	
佐潟探鳥散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。	 	11月～2月までの第2、4土曜日	72	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター	
冬鳥ウオッチング	ボランティア解説員の案内で佐潟の冬鳥を観察する。	 	令和4年12月3日(土)	9	佐潟公園で佐潟ボランティア解説員の案内の下、野鳥観察を行う。	佐潟ボランティア解説員から冬鳥の解説を聞きながら佐潟周辺を散策し、冬鳥が多く飛来する佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター	
事業名称	事業概要	SDG s 該当項目	R4年度事業				写真	団体名
			開催日程	参加者数(人)	実施結果	効果と課題		
佐潟文化祭	佐潟に関する絵、写真、書、俳句等の作品を募集し展示する。	 	令和5年2月4日(土)～2月26日(日)	24	応募者数24名、応募点数43作品(写真24点、書14点、絵画1点、手芸2点 工芸2点)	佐潟に魅力を感じている佐潟リピーターや来館者に作品発表の場を提供した。来館者に佐潟の魅力発見や癒しの場として楽しんでもらった。	佐潟水鳥・湿地センター	
早春の佐潟を歩こう	ボランティア解説員の案内で早春の佐潟で植物や野鳥を観察しながら散策する。	 	令和5年3月18日(土)	9	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、植物や野鳥を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター	